



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

第6回 大阪大学豊中地区 研究交流会

2021年12月21日(火)

会場：オンライン開催 (Remo Conference/Zoom)

プログラム

10:30-10:40 開会挨拶 西尾章治郎 (大阪大学総長)

10:40-12:00 ポスターセッション

12:00-13:30 情報交換会

13:30-14:50 ポスターセッション

14:50-15:00 閉会挨拶 瀧口 剛 (法学研究科長)

主催 : 大阪大学 大学院法学研究科, 文学研究科, 経済学研究科,
理学研究科, 基礎工学研究科, 言語文化研究科, 国際公共政策研究科,
高等司法研究科, 総合学術博物館, 全学教育推進機構, サイバーメディア
センター, 国際教育交流センター, CO デザインセンター

共催 : 大阪大学共創機構

後援 : 豊中市, 吹田市

第6回大阪大学豊中地区研究交流会 発表ポスター一覧
2021.12.21 (火) 10:30~15:00 オンライン開催

2021.12.8現在

★コアタイム…発表者がそれぞれのポスターを説明する時間帯（ポスターは会期中いつでもご覧いただけます）

場所	所属	発表者	発表タイトル	キーワード	要旨	コアタイム★		
						10:40-12:00	13:30-14:50	
2階	1	小野 真司 (オノ シンジ) ・西洋美術史	パウハウスとチェコスロヴァキアーハンネス・マイヤーとカレル・タイゲの交友関係を中心にー	パウハウス、ハンネス・マイヤー、カレル・タイゲ、モダニズム建築、戦間期、チェコスロヴァキア	スイス・バーゼル出身の建築家・都市計画家であるハンネス・マイヤー (Hannes Meyer, 1889-1954) は、スイスでの活動の後1928年から約3年間ヴァルター・グロピウスの後任としてパウハウスの校長を務め、その後ヴィット・連邦やメキシコで建築や都市計画、教育に携ったのちスイスで死去した。彼は、特に戦間期においてチェコスロヴァキアの前衛芸術家カレル・タイゲ (Karel Teige, 1900-1951) と深い交友を築いた。両者の親交を糸口にはパウハウスとチェコスロヴァキアの関係を考える。		○	
	2	西田 創 (ニシダ ハジメ) ・西洋美術史	19世紀フランス絵画におけるアンシャン＝レジュール期のイメージ	フランス近代美術、風俗画、アトリエ、エルネスト・メソニエ、アンシャン＝レジュール	現代日本では、大正ロマン、昭和ポップスなど過去のイメージが特定の時代と結びついて固定化され消費される。19世紀のフランスでも類似した現象が見られる。歴史の転換点たるフランス革命 (1789年) では、王政や貴族制度が崩壊し、新たなブルジョア社会が誕生した。この時、19世紀の人々は失われた過去をどのように理想化して描いたのか。当時絶大な人気を博した画家メソニエを中心に、過去イメージの構築について考察する。		○	
	3	山本 結菜 (ヤマモト ユナ) ・アート・メディア論	ローマ大学都市 数学研究棟におけるジオ・ポンティのデザイン	ジオ・ポンティ、公共建築、ファシズム、ローマ大学都市、デザイン	フランスム体制下のイタリア、首都ローマにイタリアの新しい様式を示す大学都市を築くというムッソリーニの野心のもと、1932年にマルチェロ・ピアチェンティニがローマ大学都市計画を始めた。1920年代にキャリアをスタートさせ、主にミラノを中心に民間住宅を手掛けていたジオ・ポンティが初めて公共建築に携わったのが、この計画の数学研究棟であった。全体主義国家の建築事業のなかで、ポンティはどのようにその独自性を発揮したのか、そのデザインの源を探る。		○	
	4	文学研究科	上島 直人 (ウエジマ ナオト) ・アート・メディア論	漫画同人誌即売会を通じた社会と個人の繋がり方に関する研究	インタビュー、サブカルチャー、生成過程	創作活動家の独創性や想像力が、デジタルによって決定されているという仮説を、活動家へのインタビューや生成過程のデータ提出を通して検証した。結果、デジタル的な要素が独創性や想像力を決定しているという事実は無く、また、その活動家たちもデジタル的な要素との関係性を、既に自身で考え、作り上げているということが分かった。一方、作家の独創性や想像力は、「時間」や「日常」、「仕事」といった、一見すると創作活動とは直接関係のないように見える要素と、深い関係を持っていることも分かった。	○	
	5	山本 遊 (ヤマモト ユウ) ・西洋美術史	占領期日本の文化政策 一関西古美術同好会による展覧会についてー	占領期、GHQ/SCAP、文化政策、美術コレクション、展覧会	発表者は、占領期のGHQ/SCAPによる文化政策が戦後日本の文化政策に与えた影響を明らかにするため、国立国会図書館所蔵の『GHQ/SCAP文書』の調査を進めている。本発表では、当時GHQ/SCAP内美術記念物課長であったシャーマン・E・リーにより「美術の民主化」の好例として強調された、関西古美術同好会主催の「京阪神諸名家展覧 古美術展覧会」(1947年4月1日～4月25日、於・白鶴美術館) に注目し、主に同資料をもとに、その開催経緯や美術記念物課の関わり方などを考察する。	○		
	6	石井 正彦 (イシイ マサヒコ) ・日本語学講座	探索的データ解析による日本語研究	探索的データ解析、コーパス言語学、計量言語学、日本語学	データによって仮説を検証する確認的データ解析 (推測統計学) に対して、データによってデータそのものを説明する (データ自身に語る) 探索的データ解析 (Exploratory Data Analysis: EDA) の考え方・方法を言語研究にも適用することで、新たな日本語研究の可能性が展望できることを、いくつかの事例的研究を紹介しながら試行的に論じる。		○	
	7	山上 浩嗣 (ヤマジョウ ヒロツグ) ・西洋文学・語学講座フランス文学	モンテーニュのバイディア 一旅と書物による人間形成	『エセー』、人文学 (humanities)、判断力、精神の自由、教育論	「人文学humanities」は、人間の自己形成、人格の陶冶を目的とする「バイディア」(教養、教育を意味するギリシア語) を起源としている。ミシェル・ド・モンテーニュ (1533-1592) は「エセー」において、知識の詰め込みではなく、精神の自由と思考力を重んじる近代的な教育論を読み、後年のルソーなどに大きな影響を与えた。本発表では、モンテーニュが判断力の形成手段として重視する旅と書物に関する記述に注目し、彼の「バイディア」についての考えを概観する。	○		
	8	法学研究科	津野田 一馬 (ツノダ カズマ)	会社の社長、誰が選ぶ？ーコーポレート・ガバナンス規制の現在地点	会社法、コーポレート・ガバナンス、企業組織、会社役員人事	上場企業が健全かつ持続的に企業価値を向上させるためには、適切な人物を経営者に選任し、不適切な経営者を交代させることが重要である。経営者を選ぶのは最終的には株主という建前になっているが、実際には株主が積極的に経営者を交代させることは少ない。経営者の交代が適切に行われるために、取締役会・社外取締役や株主がどのような役割を果たすべきか、また、法制度上どのような対応が可能か、検討する。	○	
	9	高等司法研究科	郭 娜娜 (カク ナナ)	インターネット・プラットフォームは本当に「自由」かープラットフォーム事業者を介した表現規制を素材にして	インターネット・プラットフォーム、間接的な表現規制、憲法的統制	表現の自由の主戦場がインターネット・プラットフォームへとシフトしつつある。これに伴い、プラットフォーム事業者を介した表現規制という、間接的であり巧妙な表現規制の手法が活用されるようになってきた。ただ、このような規制手法は表現の自由との間に緊張関係をもたらす。これに対して憲法学者がどのように対処すべきなのだろうか。本報告では、憲法的統制のアプローチを探索するため、議論の蓄積がある欧米の具体例を主たる素材にして、プラットフォーム事業者を介した表現規制の成立・構造・問題点に焦点を当てつつ、その特性の解明を試みたいと思う。		○
	10	経済学研究科	恩地 一樹 (オンジ カズキ)	M&Aは税制に左右されるか：「お見合い」モデルを用いた計量分析	税制、企業行動、M&A、節税	税制は社会全体に広く深く関わりがあるが、企業行動にどのような影響を及ぼしているのか？この研究では、M&Aなどの企業統合行動に着目し、税の影響を検証した。企業統合の成否には企業同士のマッチング度が重要と考えられるが、本研究では双方向的な意思決定をモデル化した分析手法を租税分析で初めて応用し、上場企業データを解析した。また、最高裁で係争された租税訴訟で問題になった租税回避手段の一般性も検討した。	○	
	11	三輪 一統 (ミワ カズノリ)	ライバル企業との競争と情報開示	情報開示、会計情報、製品市場、寡占	一般に、企業による積極的な情報開示は、主として投資家・株主の投資意思決定に資するという見地から、望ましいことであると考えられている。しかし、ライバル企業との競争を考慮に入れると、情報開示を通じて自社の重要な情報がライバル企業にも伝わり、利用されてしまうことによって、競争上の不利益を被る可能性もある。本研究では、ライバル企業との競争が存在する状況を分析し、企業の利害、消費者余剰、総余剰の観点から、情報開示が望ましい、あるいは望ましくないのはどのような状況なのかを検討する。		○	
	12	国際公共政策研究科	須永 美穂 (スナガ ミホ)	高齢化社会はリスク回避的になり、その経済は持続的に成長できないのか？	経済成長、高齢化、リスク回避行動、長寿化	本研究は、経済活動に伴うリスクに対する若年世代と高齢世代の態度及び行動の違いが、高齢化社会における経済成長に与える影響について、経済成長に関する経済学に基づいた既存の理論研究と、社会科学や老年学に基づいた近年の実証研究の知見を融合させた新たな経済成長モデルを用いて分析する。構築したモデルから、高齢世代が若年世代よりリスク回避的であるとき、その高齢世代のリスク回避行動が、高齢化社会における資本蓄積の阻害要因となることが示された。	○	
	13	中村 信之 (ナカムラ ノブユキ)	貫戦期における帝国間の文化交流 一日米学生会議と日比学生会議を題材に	日米学生会議、日比学生会議、文化交流、帝国間、国際主義、トランスナショナリズム	1930年代はパブリック・ディプロマシーの黎明期で、各国において同事業は省庁によって統括が進んだ。「相互理解」を目指して学生が創設した2つの学生会議は国家中心主義の「国際主義」、そして帝国間で展開された文化をめぐる競合へと接続していく。しかしその背後には権威に収められない学生の自律性、「周辺国」の協力と抵抗、トランスナショナルな二重性をもつ二世のアイデンティティをめぐるポリティクスが存在した。		○	

場所		所属	発表者	発表タイトル	キーワード	要旨	コアタイム★	
							10:40-12:00	13:30-14:50
2階	14	言語文化研究科	小杉 世 (コスギ セイ) ・ 言語文化専攻 今岡 良子 (イマオカ リョウコ) ・ 言語社会専攻	オセアニア海洋文化とモンゴル遊牧民文化からSDGsを考える	環礁、気候変動、廃棄物、砂漠、遊牧/家畜、持続可能な発展(SDGs)	本研究はオセアニアとモンゴルを対象に、海と砂漠の文化からSDGsを考える。太平洋の環礁はリン鉱石採掘、核実験や廃棄物の投棄、気候変動による海面上昇などの問題にさらされてきた。また、自然条件の厳しい砂漠にも人が住み、自然に学び、文化を創り出し、それは今日まで持続してきた。今、呼びかけられているSDGsは、砂漠の遊牧文化を後押しするものだろうか？グローバル化の影響を受ける先住民文化の諸相を考察する。	○	
	15		秦 かおり (ハタ カオリ) ・ 言語文化専攻	在英日本人移民のナラティブにみるCOVID-19とアイデンティティー差別と排除にどう向き合うかー	COVID-19、差別、移民、ナラティブ、英国	2020年に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、その発症地域についての為政者の発言やメディア報道などによってアジア系移民に対するヘイトクライムを生み出した。本発表は、日本人移民が実際にどのような差別に遭い、それをどう表現するのか、また被差別意識に差がある移民同士は会話の中でそれをどう調整するのかを検証する。これはその地域に住むこと以外が選択肢にない状況で社会の中に自らの立ち位置をどう確保し生き抜くかを明らかにする試みである。		○
3階	16	菅谷 友亮 (スガヤ ユウスケ) ・ 言語文化専攻	視線計測が明らかにする意味論・語用論的な言語プロセスー指示詞と形容詞に着目してー	心理言語学、アイトラッキング、言語理解と産出プロセス、スケールが関わる語彙	昨今の言語学は、単に言語自体の記述や説明ではなく、言語が形成されるまでのプロセスを(自然)科学的に解明しようとする傾向にある。「見ている所は処理されている所」と想定する視覚世界パラダイムを用いた視線追跡研究は、意味論・語用論的に前言語のプロセスを解明するのに役立てられている。本研究は、特にスケールが関わる点で共通の概念構造をもつ指示詞と形容詞に注目して、それらの認知プロセスの一端を解明する。	○		
	17	鎌田 聖一 (カマダ セイイチ) ・ 数学専攻	組みひもの幾何と代数	組みひも、群、組みひも関係式、2次元組みひも、結び目理論	数学では組みひもは3次元空間内の曲線の集まりとして定義される。幾何的に定義された組みひもは群という代数的構造を持ち、組みひもが作る群(組みひも群)は生成元と関係式を使って代数的に扱うことができる。組みひもはAlexanderの定理とMarkovの定理という2つの定理で結び目理論と対応している。組みひもの高次元化である2次元組みひもは、2次元版のAlexanderの定理とMarkovの定理を介して4次元空間内で曲面がなす結び目に対応する。	○		
	18	平尾 泰一 (ヒラオ ヤスカズ) ・ 化学専攻	特異な化学結合の構築と機能化に関する研究	化学結合、構造有機化学、ラジカル、刺激応答性	化学結合とは、物質を構成する原子同士を結び付ける結合である。その性質によって様々な種類が存在するが、それらは共通して、結合を形成する原子に属する電子の相互作用に由来したものである。今回、化学結合を人為的に引き延ばした場合、あるいはねじった場合、どのような現象が生じるのかについて研究した成果を紹介する。また生まれた状態を活かした機能・応用の展開についても発表する。	○		
	19	小笠原 絵美 (オガサワラ エミ) ・ 生物科学専攻	ミトコンドリアDNAの遺伝子突然変異を原因とする疾患の分子理解	動物細胞、ミトコンドリア、ミトコンドリアDNA、生細胞観察	ミトコンドリアは細菌の細胞内共生を起源とする細胞小器官であり、今でも独自のDNA (mtDNA) を内部に有している。哺乳動物では各細胞に数百~数千のmtDNAが存在しているが、一部に突然変異が導入され、さらにその変異型mtDNAの存在比率が増加すると、ミトコンドリアの機能低下が引き起こされ様々な疾患の原因となる可能性が考えられている。私達は生細胞の顕微鏡観察を行い、ミトコンドリアが恒常的に形を変えながら機能を制御する分子機構について研究を行っており、その研究成果を紹介する。	○		
	20	竹川 宣宏 (タケカワ ノリヒロ) ・ 高分子科学専攻	細菌の運動装置の構造と機能	細菌、べん毛、X線結晶構造解析、電子顕微鏡	細菌の多くは、べん毛と呼ばれる繊毛様の器官を使って泳ぎます。べん毛の各部分はまるで人間が発明した機械のように作動します。べん毛の根元にはタンパク質でできた直径約50ナノメートルの回転モーターがあります。その内部には、べん毛を構成するタンパク質を送り出す輸送装置があります。私達はこれらの生物由来分子機械の作動機構を原子レベルの立体構造解析と分子機械の再構成を通じて調べています。	○		
	21	佐々木 晶 (ササキ ショウ) ・ 宇宙地球科学専攻	宇宙の塵を直接測る	太陽系探査、ダストリング、星間塵、ダスト計測器	太陽系の宇宙空間には、小惑星や彗星から放出された塵など、様々な種類の塵(ダスト)が存在することが知られている。火星探査機NOZOMIに搭載された衝突電離型ダスト計測器MDCは100個以上の塵を測定した。速度・方向から太陽系外起源の星間塵と考えられるものも存在した。水星探査機MIOには圧電素子を使う計測器MDMが搭載され、太陽系の内側のダスト環境を明らかにする。火星探査機MMXには大面積計測器CMDMが搭載され、衛星起源のダストリングの計測を目指す。	○		
	22	中野 元裕 (ナカノ モトヒロ) ・ 熱・エントロピー科学研究センター	熱容量で見るサイコロ型鉄14核錯体の四重極秩序への相転移	熱容量(比熱)、相転移、多核錯体、四重極	頂点と面心位置に鉄原子を計14個置いたサイコロ型の分子からなる結晶の熱容量を低温から室温まで測定し、150 Kに相転移による異常を見いだした。14個の鉄原子の内訳は12個がFe(II)、2個がFe(III)と、酸化状態の異なるものが共存する「混合原子価状態」であり、室温では分子の中でFe(II)の位置がFe(III)の位置と入れ替わるかたちで動き回っている原子価非局在化が起こっている。各種分光測定の結果とあわせて検討し、150 Kの相転移がこの原子価の局在化に相当し、結晶の四重極秩序が実現していることが明らかとなった。		○	
	23	PARK JUNSU (パーク ジュンス) ・ 基礎理学プロジェクト研究センター	高分子材料の設計とその機能	機能性高分子材料、材料設計、自己修復性、導電性、強靭化	小さい分子が無数につながって得られる大きな分子を高分子という。我々の生活はゴムやプラスチックのような高分子の材料によって支えられている。しかしながら、高分子は金属、ガラス、木材などは異なりその概念が捉えられなかった100年程度と短く、未解明のところが多すぎた。本発表では高分子材料の性能向上または自己修復性や導電性等の新たな機能付与のための材料設計及びそれらから得られた結果を紹介する。		○	
	24	青木 正治 (アオキ マサハル) ・ 物理学専攻	ミュオン粒子で探る高エネルギー物理現象	ミュオン粒子、稀現象、素粒子物理学、高エネルギー物理学、J-PARC	短距離の核力を担う実体として湯川秀樹が予想したパイ中間子のように、非常に稀な現象の背後には非常に高いエネルギーの新奇粒子などが存在する可能性がある。我々が東海村にある大強度陽子加速器(J-PARC)で実現するべく実験準備を進めているCOMET実験では、大量のミュオン粒子を用いて非常に稀なミュオン粒子反応を探索する。これによって、LHCで到達できるエネルギースケールを遥かに超えた高いエネルギーの素粒子に関する研究を飛躍的に発展させようとしている。		○	
	25	李 泓翰 (リ コウカン) ● 松永 大樹 (マツナガ ダイキ) 出口 真次 (デグチ シンジ)	細胞収縮力を推定する機械学習システムの構築	バイオメカニクス、細胞力学、機械学習	細胞の運命(増殖・分化・アポトーシス等)と力学の因果を説明するメカノバイオロジーは重要な研究分野である。細胞が発揮する収縮力は微小であり検出が困難であるが、我々は培養基板上に発生するシワから収縮力を定量化する機械学習システムを開発した。機械学習システムはシワの幾何情報を収縮力へと変換することを可能にするため、スループットの高い効率的な細胞力学計測システムとして期待できる。本ポスターでは開発したシステムの詳細について説明する。		○	
26	山口 涉 (ヤマグチ ショウ)	安全・省エネ・低コストでソルビトールを合成する新規合金ナノ触媒の開発	触媒、グルコース、ソルビトール、水素化、合金	食品添加物や医薬品、化粧品原料等に欠かせないソルビトールをグルコースから合成する、空気中で安全・高活性かつ再使用可能な非貴金属合金ナノ粒子触媒の開発に成功した。従来の触媒は、大気中で発火性があり高圧・高温の厳しい反応条件が必要でかつ活性が低い欠点があった。開発した触媒は、世界で初めて常温(25℃)あるいは常圧水素下(1気圧)におけるソルビトール合成を促進する。本成果により、安全かつ低コスト・省エネルギーでソルビトール作り出す、高効率かつ環境に優しい次世代型触媒プロセスの開発が期待される。	○			
27	基礎工学研究科 松居 和寛 (マツイ カズヒロ)	表面筋電図および機能的電気刺激を用いた新しいバイオフィードバックシステムの研究	筋電図、バイオフィードバック、機能的電気刺激、内部モデル、リハビリテーション、仮想/拡張現実	本研究は、これまで報告されてきた、機能的電気刺激(FES)を用いてヒトの間筋運動をモデル化する、という手法を用いて個人の神経筋骨格系(Neuromuscular skeletal system: NMSS)をモデル(NMSSモデル)として取得し、それを用いて直感的な筋電図(EMG)によるバイオフィードバック(EMG-FB)を実現し、EMG-FBが持つ課題の解決を目指すものである。直感的とはすなわち、EMGから運動を予測して表示できることを言い、仮想現実(VR)/拡張現実(AR)空間で、NMSSモデルを用いてEMGとFESをインタラクティブに結合させることを本研究の目的とする。	○			
28	堀井 隆斗 (ホリイ タカト)	深層生成モデルによる柔軟デバイスの環境超適応技術	生成モデル、強化学習、最適制御、柔軟センサ・アクチュエータ	外界への適応性向上を目的として柔軟素材を利用したデバイスが多数開発されている。柔軟素材は環境へのなじみをたやすく一方で、特性のばらつきやヒステリシス性により制御性やセンサのパフォーマンスを低下させる場合もある。本研究では、深層生成モデルと物理シミュレーションにより、柔軟アクチュエータとセンサの頑健性を向上させる環境超適応技術の確立を目指す。本発表では、Generative Adversarial Networkを用いたシミュレーションモデル生成について紹介する。	○			
4階	29	下澤 雅明 (シモザワ マサアキ)	強トロイダル金属における電気磁気効果	強トロイダル体、電気磁気効果、電流誘起のゼロ磁場ホール効果、UNI4B	物質の性質を理解する上で、その対称性を議論することは重要である。例えば、強磁性体/強誘電体では時間/空間の反転対称性が破れている。一方、強トロイダル体では、これら2つの対称性が同時に破れている。ここでは、電場/磁場によって磁化/電気分極が誘起されるといった「電気磁気効果」が現れてよい。特に金属状態では、電場の代わりに電流によってゼロ磁場ホール効果などの金属特有の現象が理論予想されている。本発表では、UNI4Bを用いて、その実験検証を行った。		○	

場所		所属	発表者	発表タイトル	キーワード	要旨	コアタイム★	
							10:40-12:00	13:30-14:50
4階	30	COデザインセンター	大谷 洋介 (オオタニ ヨウスケ)	獣害対策を題材とした研究教育の相乗効果について	社会課題、獣害、野生動物、教育、PBL	近年、大学と大学に籍を置く研究者に求められる役割は大きく変化し始めている。単一分野の視点では解けない複雑化した課題に社会全体が直面するなか、大学には特定分野の知見を深める学術の場としての機能と、多様な分野・ステークホルダーと連携し社会の課題を解決に導く人材を育成する機能がともに必要とされるようになってきている。本発表では獣害問題を題材として上述の研究・教育の共存を試行的に実施した例を紹介する。	○	
	31		池田光穂 (イケダ ミツホ) (COデザインセンター) 徐 淑子 (ソウ スツチャ) (新潟県立看護大学) 山崎 スコウ 竜二 (ヤマザキ スコウ リュウジ) (大阪大学 先導的学際研究機構) 井上 大介 (イノウエ ダイスケ) (創価大学)	機械の「心」と対話は可能か? : 大学教育の中での審問	シンギュラリティ、人工知能、レイ・カーツワイル、科学技術と日常生活、インターネット	レイ・カーツワイルの「The Singularity Is Near: When Humans Transcend Biology.」(2005)が公刊されて今年2021年で15周年を迎えた。公刊当時、読者褒貶をも迎えられた同書もその楽観的予測通りにはいかに歴史的使命を終えたかのように思われる。その一方で私たちの日常生活にインターネット端末は溢れ「それなしに」現代人の生活は考えられず、人工知能は地球上で生活する人たちに不可欠な技術になった。この発表は科学技術と人間の日常生活の関係を「対話」のメタファーを通して、Singularity はもうとっくに到来している様を大学における教育を通して考える。	○	
	32		浦西 友樹 (ウラニシ ユウキ)	メディア統合環境 ーメディアを統合、活用した新しい環境の創造	メディア、情報教育、XR、ヒューマンインタフェース、ロボティクス	我々の部門は「情報メディア教育研究部門」として本学の情報教育に関する業務を遂行するとともに、「メディアを取り込み、活用した新しい環境の創造」をテーマとする「メディア統合環境講座」として研究活動も行っています。本講座で取り扱う要素技術はXR、ヒューマンインタフェース、コンピュータビジョン、ロボティクスなど幅広く、また応用先もスポーツや教育をはじめ多岐にわたります。本発表では最新の活動内容について紹介します。		○
	33	サイバーメディアセンター	吉野 元 (ヨシノ ハジメ)	詰め込みのフラストレーション ージャミングの物理から深層学習まで	深層学習、フラストレーション、統計力学、ジャミング、ガラス転移	病室電車のようなすし詰め状態では、人とぶつかるのを避けようとして、別の人にぶつかってしまったります。深層ニューラルネットワークに沢山のデータを詰め込むこと、ネットワークのどあたりで学習が大変になるのだろうか? モノ(物質)やコト(情報)をぎゅーりと詰め込むことによるフラストレーションの効果について、統計力学と呼ばれる物理学の理論手法を用いて分野横断的にしている研究を紹介する。	○	
	34		高橋 彰 (タカハシ アキラ)	避難シミュレーションを用いた大規模地下街津波浸水対策の避難誘導計画の評価 ーホワイティうめだを事例にー	避難シミュレーション、大規模地下街、浸水、避難誘導計画、津波	東日本大震災を契機として、津波到達が予想される地下街の管理者等に対して、津波発生時の円滑な避難を図るための計画の作成、公表が義務付けられた。本研究では、大規模地下空間における大地震による津波災害を想定し、避難計画の見直しに伴う避難安全性の向上を定量的に評価することを目的とする。管理会社が作成した複数のシナリオを、最も複雑する平日18時にシミュレーションし、比較検討を行った結果、避難誘導の観点から各シナリオの避難安全性の一部を評価できた。	○	
	35		下條 真司 (シモジョウ シンジ) 大平 健司 (オオヒラ ケンジ)	イノベーションを目指すNICT beyond 5G テストベッド	Beyond 5G、次世代モバイルネットワーク、超高速超低遅延、NICTテストベッド	サイバーメディアセンターはNICTのBeyond 5Gテストベッドに参加すべく準備を進めている。この活動では、豊中グラウンドおよび吹田センター前・CMC本館内にLocal 5Gのネットワークを構築し、SRv6などを用いてモバイルネットワーク自体の効率的な運用方法を探るとともに、この超高速超低遅延ネットワークをセンターネットワークとして利用することでMaaS (Mobility as a Service)やヘルスケアなどの分野のアプリケーションの開発運用も進め、SDGsへの貢献も図る。		○
	36		医学系研究科(豊中)	内藤 智之 (ナイトウ トモユキ) ・認知行動科学教室	人工知能を用いたヒトの感性評価メカニズムの解明	GAN、心的テンプレート、絵画アート、感性	ヒトの好みや好き嫌いに関係する感性の研究は、主として実験心理学研究方法を用いて行われる。そこで我々は人工知能、畳み込み深層ニューラルネットワーク (DCNN) と敵対的生成ネットワーク (GAN) を用いることで、我々に感性評価に関係する要因を設定することなく、ヒトの感性評価メカニズムを検討する手法を開発した。この手法を用いることで、我々は様々な画像カテゴリにおいてヒトは心の中の理想的な視覚イメージ(心的テンプレート) との類似度から感性評価を行っていることを示唆する結果を得た。	
	37	宮崎 亮 (ミヤザキ リョウ) ・スポーツ医学教室		筋挫傷の新規治療法開発を目指した基礎研究ー筋挫傷モデルvs薬剤誘導性筋損傷モデルー	骨格筋挫傷、動物モデル、カルジオトキシシ、筋再生、エコー	スポーツや外傷による骨格筋挫傷の多くは保存療法で良好な経過をたどるが、一部に治癒が遅延する症例が存在する。積極的介入には更なる病態解明が必要であり、本研究ではエコーを併用し再現性を担保した骨格筋挫傷モデルを作成した。筋再生研究で頼りられる薬剤誘導性筋損傷モデルとの比較検討を、生化学的・バイオメカニクスの解析手法を用いて行った。組織学的評価や遺伝子発現に関する差異を中心に、現在までの成果を紹介する。		○
	38	総合学術博物館	伊藤 謙 (イトウ ケン) (大阪大学総合学術博物館) ● 波瀬山 祥子 (大阪大学総合学術博物館) 五十里 翔吾 (大阪大学基礎工学研究科・ヴァーチャリオン株式会社) 武澤 里映 (大阪大学文学研究科) 松行 輝昌 (大阪大学共創機構) 出川 哲朗 (大阪市立東洋陶磁美術館・大阪大学総合学術博物館) 橋爪 節也 (大阪大学総合学術博物館) 安井真奈美 (国際日本文化研究センター) 永田 靖 (大阪大学総合学術博物館)	大阪大学総合学術博物館資料部の活動〜コロナ流行下の新たな試み〜	大学博物館、展示、教育、ウイズコロナ、ポストコロナ	コロナ流行下において、様々な社会生活が大きく変容した。大学博物館も例外ではなく、大きな変化を迫られた。特に、重要な機能である、「教育」「展示」の部分においては変化は大きかった。しかしながら試行錯誤を重ねることは、新たな研究や活動にもつながった。本発表では、大阪大学総合学術博物館資料部が行ってきたコロナ流行下での活動を紹介しますと同時に、皆さまとポストコロナ時代の大学博物館のあり方を考えていきたい。		○
	39	国際教育交流センター	中野 遼子 (ナカノ リョウコ) (国際教育交流センター) 山森 裕毅 (ヤマモリ ユウキ) (COデザインセンター) 菱田 伊駒 (ヒシダイコマ) (一般社団法人イケダ大学)	交換留学生を対象としたインターンシップ実習の実践報告 ー豊中キャンパス周辺地域におけるインクルーシブな環境づくりを学ぶー	インターンシップ、交換留学生、社会福祉、インクルーシブな環境づくり、社会学	2021年度春夏学期より、英語による交換留学プログラム (OUSSEP) 学生向けに、一般社団法人イケダ大学、石橋商店街、吹田市旭通商店街の協力のもと、「インターンシップ実習コース2 社会福祉コース」を実施している。本発表は、インターンシップ実習の実践報告を行うとともに、今後の課題や計画についても述べる。		○
	40		瀬井 陽子 (セイ ヨウコ)	SALC (OUマルチリンガルプラザ) における課外での自律的な日本語学習サポートの実践報告	留学生、日本語教育、自己主導型学習、Self-Access Center、言語学習アドバイザー	2020年10月に大阪大学豊中キャンパスにSelf-Access Center (SALC) であるOUマルチリンガルプラザが開設された。本発表ではOUマルチリンガルプラザで実施した課外でのサポートについて、SALCの理論的な枠組みを述べたのち、開設後に実施したサポートについて報告する。	○	
	41	全学教育推進機構	浦田 悠 (ウラタ ユウ)	大学教員における仕事の意味に関する研究に向けて	仕事の意味、人生の意味、天職、実存的労働	働く世帯にとって、仕事の意味は、人生の意味の重要な源であり、「何のために働くか?」という問いは、個人的な満足感から職場の良好な人間関係、社会的な価値の実現、宗教的な価値の実現まで、多次元にわたる答えのリストを生んできた。本発表では、筆者の研究も含む、仕事の意味についてのこれまでの研究や理論を整理し、やりがい搾取などのダークサイド(暗黒面)も含めた課題や展望を考察する。		○
	42		西川 晃弘 (ニシカワ アキヒロ) ● 相川 大知 (アイカワ ダイチ) 朝日 瀬菜 (アサヒ セナ) 見城 佑衣 (ケンジョウ ユイ) 中村 桃子 (ナカムラ モモコ) 権藤 千恵 (ゴンドウ チエ)	大学におけるアフターコロナ時代の学生生活支援のあり方ー『阪大ウェルカムチャンネル』の取り組みを通じて	学生生活支援、COVID-19、動画コンテンツ、協働、DX	『阪大ウェルカムチャンネル (以下HWC)』は、コロナ禍の新入生を動画コンテンツの配信によって支援する取り組みとして2020年度に開始された。しかし、学生が正課と正課外の双方を充実させるためには、HWCからの情報発信だけでは不十分であり、大学全体でアフターコロナ時代に向けた学生生活支援のあり方を検討しなければならぬ。そこで本研究では、HWCに取り組んできた立場から、HWCのアナリティクスデータやアンケート調査を分析し、大学が抱えている課題について考察する。		○

●がついている場合は、主な発表者を示します。

Remo Conference マニュアル（参加者・発表者共通）

【はじめに】

豊中地区研究交流会とは、豊中キャンパスが人文社会科学系と理系部局を抱えているという特徴を活かして、各部局の研究者が相互の研究を知り、交流を深めることを目的に 2016 年から実施しています。

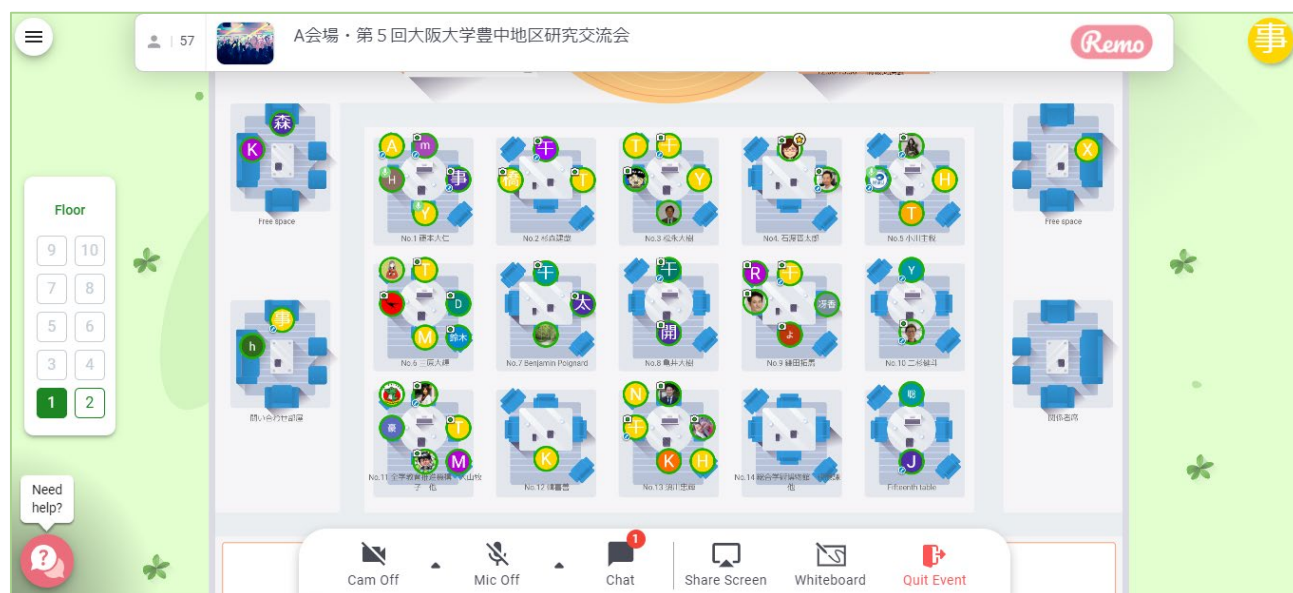
オンサイトでの実施風景：



本年度は、オンラインイベントツール「Remo Conference」（以下、Remo という）を利用します。そのため、ご自宅や大学などから、**カメラ・マイク付きのパソコン**（カメラとマイクがパソコンに付いていない場合は、ウェブカメラとイヤフォンマイクあるいはヘッドセットを準備）でアクセス・参加してください。スマートフォンやタブレットについては、動作を保証することが困難です。また、**有線接続もしくは高速 Wi-Fi に接続した環境**をご準備いただくことを強く推奨いたします。

■会場イメージ

2020 年度の実施風景です。（今年度のレイアウトとは異なります。）



Remo 会場の様子。テーブル 1 台とソファが置かれた区画が「部屋」を示し、1つのポスター発表について1つの部屋が用意されている。丸いアイコンは、参加者の「アバター」を示し、アバターにマウスをあわせるとプロフィールが表示されるため、どの部屋に誰がいるかわかる。参加者は自動的に何れからの「部屋」に割り当てられ、行きたい「部屋」をダブルクリックして移動する。

■会場イメージ (つづき)

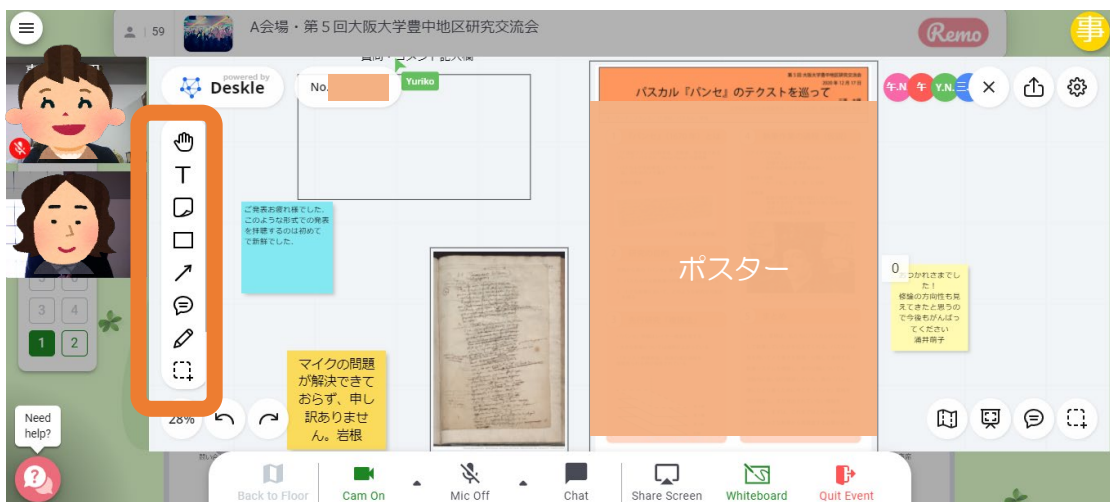
2020 年度の実施風景 (今年度のレイアウトとは異なります)



Remo を利用したポスターセッションの様子. ここでは, 基礎工学研究科の発表者が, 理学研究科, 法学研究科からの参加者と, ポスターを使わずにカメラとマイクを使ってディスカッションを行っているところ. Remo では, チャットや画面共有の機能も使用できる.



1 つの部屋におけるポスター発表の様子. 法学研究科の発表者が「ホワイトボード機能」を使って研究発表を行っているところ. 発表者や参加者はそれぞれ自由にポスターを拡大縮小することができる. また, 互いにマウスの動きを見ることができるため, ポスターのどの部分について説明しているか, 質問しているかがわかりやすい.



法学研究科の発表者が「ホワイトボード機能」を使って研究発表を行っているところ. ここでは資料を追加していることがわかる. また, [Whiteboard icon] の機能を使用して, 付箋や直接入力でコメントを残すこともできる.

【1. さあ、Remo を始めてみよう！】※既に Remo アカウントをお持ちの方は4ページの「1-3」へ

1-1. Remo を使用するには、[Google Chrome \(最推奨\)](#)、Microsoft Edge、Firefox、Safari のいずれかのブラウザが必要です。[可能な限り Google Chrome をご利用願います。](#)

※Google Chrome : https://www.google.com/intl/ja_jp/chrome/ (無料)

1-2. 参加にあたっては、事前の[アカウント登録が必須](#)です (無料)。

Remo ウェブサイト (<https://jp.remo.co/>) の「ログイン」より登録できます。

招待 URL から参加する場合も、登録が求められます。

※登録名は、必ず「[氏名/所属](#)」としてください。ログイン後、変更することも可能です。

※Google アカウントをお持ちの方は、そちらを Remo のアカウントとして利用できます。その場合は、ハンドルネームが表示される場合があるので、確認のうえ変更をお願いします。

Remo Conferenceにログイン

Googleアカウントでログイン

メールアドレス*

パスワード* [パスワードをお忘れですか?](#)

ログイン

アカウントがありません 今すぐアカウント作成をする

Remo Conferenceアカウント作成

Googleアカウントで登録する

氏名*

メール*

パスワード*

以下に同意する: [利用規約](#) 及 [ポリシー](#)

登録する

アカウントを既にをお持ちですか ログインに戻る

「氏名/所属」の形で登録してください

この画面が出たら、登録成功！

1-3. 招待 URL から参加予約をしてください。

※発表者も「予約する」を選択してください。（「スピーカー入場口」は使いません。）



これで当日の準備は完了です。

事前体験会（接続テスト）と当日で接続先が異なる場合は、それぞれに参加予約をしてください。

【2. 事前体験会（接続テスト）・研究交流会当日の手順について】

2-1. 参加予約に従いリマインダメールが届きます。また、招待 URL を直接クリックしてアクセスすることもできます。接続時に普段お使いのブラウザが立ち上がる場合があります。URL をコピーし、Google Chrome などの推奨ブラウザの URL 欄に貼り付けて、参加するようにしてください。

2-2. 他のアプリ（Zoom など）でカメラとマイクを使用している場合は Remo と併用することができませんので、終了してから Remo に接続してください。

2-3. カメラとマイクはいずれも ON にして参加してください。後で変更することも可能です。

※バーチャル背景はイベント会場に入場された後に設定することができます。必要に応じて、画像ファイル（3 MB 以下）を準備しておいてください。





2-4. はじめてイベント会場に入場される際は、1 階のどこかのテーブルに自動的に割り当てられます。
 (2 回目以降に入場される際には、前回退出された位置からスタートします。)

まず、ご自身のアバター（丸いアイコン）の位置を確認してください。Remo 画面右上に表示されている丸いマークと同じです。（初期設定では、名前の最初の文字が表示されます。）

すぐに見つからなければ左下の「現在地を確認」をクリックすると今いるテーブルが拡大表示されます。また、空いている椅子のあるテーブルをダブルクリックすると自分のアバターが移動します。



2-5. Remo ではカメラ・マイクを ON にすることで、同じテーブルの参加者とビデオ会議をすることができます。各テーブルにおける基本的な操作は次の通りです。

- ① **カメラ・マイクのオン・オフ:** カメラボタン右横の逆三角形のボタンをクリック、「バーチャル背景」を選択でバーチャル背景を設定できます。
- ② **チャット:** 「全体チャット」「テーブルチャット」「プライベートチャット」の3種類のチャットを使用できます。
- ③ **画面共有:** 画面の共有が可能です。
- ④ **ホワイトボード:** ホワイトボードを開けます。
- ⑤ **退出:** イベントから退出できます。

①

 カメラオフ

②

 マイクオフ

③

 チャット

④

 画面共有

⑤

 ホワイトボード

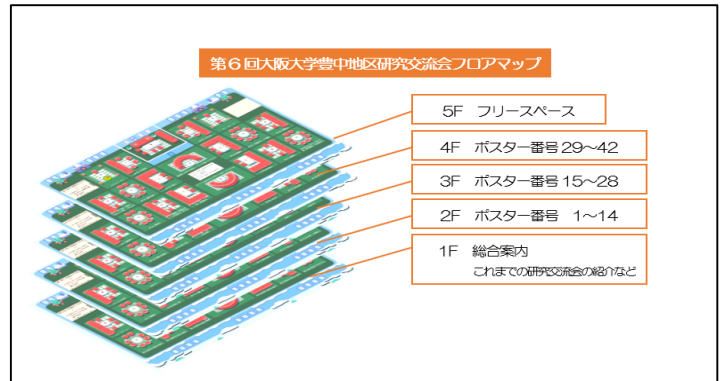
⑥

 退出

【3. ホワイトボードを使ったポスター発表について】

3-1. ポスター発表は2・3・4階で実施します。
発表ポスター一覧でポスター番号を確認してください。

ポスター番号： 1～14 ⇒ 2階
15～28 ⇒ 3階
29～42 ⇒ 4階

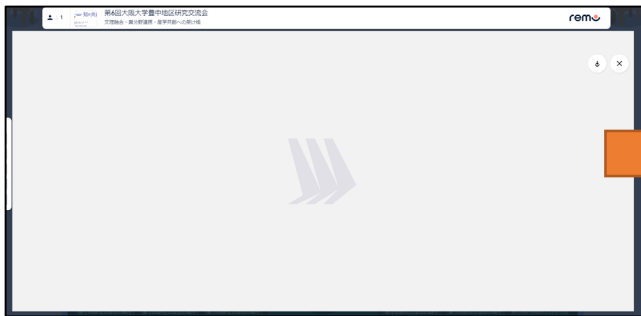


3-1. 発表ポスターは各テーブルの「ホワイトボード」に掲示しています。テーブルでは、画面共有やチャット（テーブルチャット）機能も使用することができます。

※2-5で基本的な操作方法をご確認ください。

3-2. ホワイトボードを開くと「Miro」に接続します。Miroとはオンラインホワイトボードのアプリケーションです。《2021年度からの新機能です！》

※研究交流会では、Miroのアカウント登録は必要ありません。



通信環境等により時間がかかる場合があります



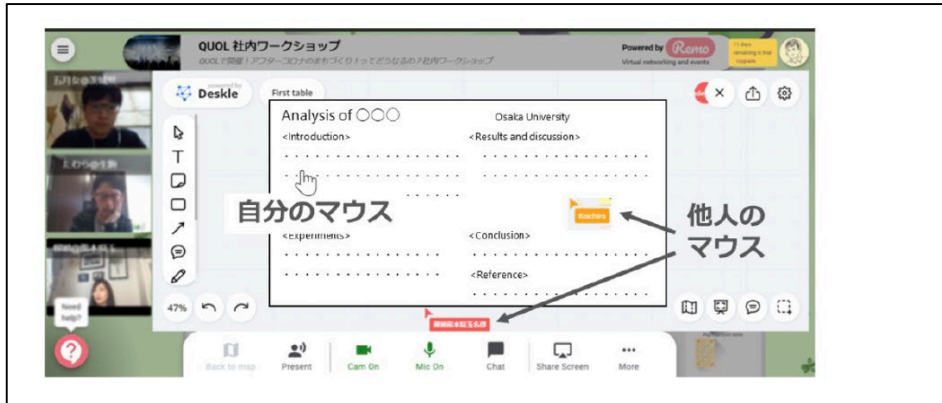
拡大・縮小表示

3-3. ポスターは自由に拡大・縮小表示することができます。

3-4. ホワイトボードに貼り付けているポスターは、主催者の許可なく編集できないようロックされています。（ダウンロードと表示されてもファイルへのアクセス権限がないため展開することはできません。）

※発表者がダウンロードを許可しても良い場合は、ホワイトボードの空きスペースを使って、別にもう一枚貼り付けるなどしてください。また、参考資料やその他発表に必要な資料を貼り付けることも可能です。（Miro 有料アカウントを持っていない場合には 24 時間で削除 されます。）

3-5. 説明箇所をマウスで指しながら（マウスポインタを利用）説明すればどの箇所を説明しているかが伝わり易くなります。質問時も同様です。自分のマウスの位置はホワイトボードを共有している全ての人の画面に表示されます。



3-6. 発表者がテーブルにいない時にもコメントを残すことができます。

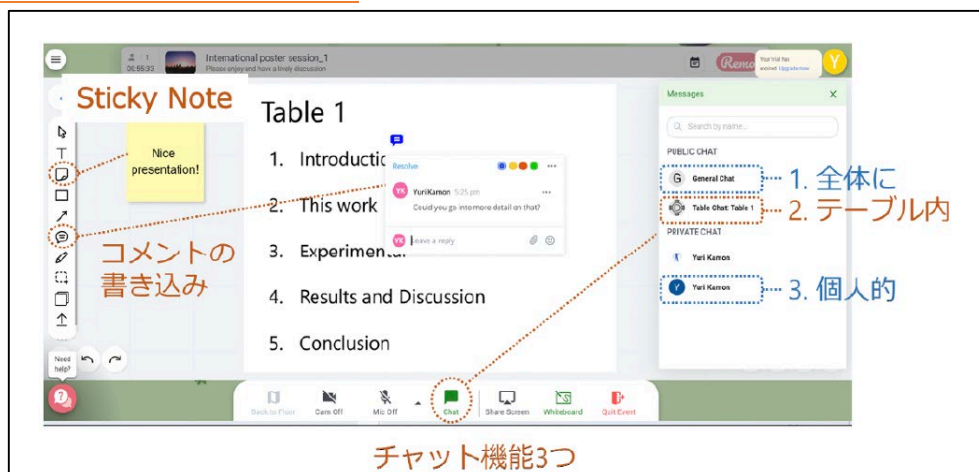
画面左側にあるアイコンから Sticky note「付箋」 をクリックし質問・コメント記入欄に貼り付け、ダブルクリックすると、コメントや質問事項を入力することができます。操作を間違えたときには「矢印ボタン」でひとつ前の操作に戻ることができます。

※発表者はコメントや質問にこの機能を使って答えるようにしてください。

また、テーブルを離れる際にはこの機能を使ってメモを残していただくことをお勧めします。




3-7. チャット機能（テーブルチャット） を使って活発にコミュニケーションを取ることも可能です。



- 3-5. ホワイトボードを終了する際は、ホワイトボード画面右上にある「X」をクリックしてください。
右下にある「退出」をクリックしないように注意してください！



【4. 研究交流会を楽しむために】

- 4-1. ひとつのテーブルに着席できる人数は最大8名です。
 席が満席の場合には、質疑応答が終わりましたら、他のテーブルに移動して、別の方に席をお譲りいただきますようお願いいたします。
 ※グループ発表の場合は、メンバーだけで満席にならないようにしてください。
- 4-2. 会場内で人を探す際には、アバターにマウスを当てるとプロフィールが表示されます。
 また、「プライベートチャット」で呼びかけることも可能です。(チャットではすでに退出されている方も名前表示が残るため、応答がない場合には既に退出されている可能性もあります。)
- 4-3. フリースペースは発表者のテーブルが満席の場合の一時待機場所、参加者同士の情報交換・懇親など、ご自由にお使いください。
- 4-5. イベント会場内でわからないことがありましたら、お気軽に「事務局」テーブルにお越しいただくか、Remo  のアバターを付けているスタッフに「チャット」等で質問してください。
- 4-6. Zoom およびメールによるサポートも行っております。お困りの際にはご利用ください。

■第6回大阪大学豊中地区研究交流会サポートセンター

【Zoom】 <https://us02web.zoom.us/j/85840029435?pwd=UDBYRUtXekJuZnZidjNsSXZyTzFwZz09>

または ミーティング ID: 858 4002 9435

パスコード: trmsupport

【メール】 osakauniv.trm@law.osaka-u.ac.jp

【内線】 豊中 2211 (学内からのみ利用可能)

【トラブルシューティング (動画)】 <https://www.youtube.com/watch?v=r5WVj07y4mU>

12/15 (水) 12:00~15:00

12/17 (金) 12:00~15:00

12/21 (火) 9:30~15:00

それでは 第6回大阪大学豊中地区研究交流会 でお会いしましょう!!